

# 行列の標準化について

いしはま ふうみたく  
石濱 文武

## §1. はじめに

2次正方行列の標準化(Jordan標準形)について簡潔に記述します。特に、重解の場合について工夫がしてあります。具体的な問題について本稿の方法を適用してみると、この方法が明解で平易な方法であることを理解されると思います。

ご参考までに、筆者の勤務校の授業で、固有値の説明の後、本稿を骨子とした教材をつくり使用したところ、かなりの数の生徒が内容を理解できたことを付記します。

## §2. 2次正方行列 $A$ が異なる2つの固有値 $\alpha, \beta$ をもつ場合

$\vec{p}(\neq \vec{0})$  を  $\alpha$  に対する  $A$  の固有ベクトル,  $\vec{q}(\neq \vec{0})$  を  $\beta$  に対する  $A$  の固有ベクトルとします。

このとき,

$$A\vec{p} = \alpha\vec{p}, A\vec{q} = \beta\vec{q} \quad (1.1)$$

が成立します。また,

$$\vec{p}, \vec{q} \text{ は一次独立} \quad (1.2)$$

です。

更に、変換行列  $P$  を

$$P = (\vec{p} \quad \vec{q})$$

とおくと, (1.2)より  $P$  は正則で,  $P^{-1}$  が存在します。

また,  $P^{-1}P = E$  (単位行列) より,

$$P^{-1}(\vec{p} \quad \vec{q}) = E$$

$$(P^{-1}\vec{p} \quad P^{-1}\vec{q}) = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}$$

$$P^{-1}\vec{p} = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix}, P^{-1}\vec{q} = \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \end{pmatrix} \quad (1.3)$$

(1.1), (1.3)より,

$$\begin{aligned} P^{-1}AP &= P^{-1}A(\vec{p} \quad \vec{q}) \\ &= P^{-1}(A\vec{p} \quad A\vec{q}) \\ &= P^{-1}(\alpha\vec{p} \quad \beta\vec{q}) \\ &= (\alpha P^{-1}\vec{p} \quad \beta P^{-1}\vec{q}) \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} &= \begin{pmatrix} \alpha & 0 \\ 0 & \beta \end{pmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} \alpha & 0 \\ 0 & \beta \end{pmatrix} \end{aligned}$$

となって,  $A$  が対角化されました。

## §3. $A$ がスカラー行列の場合

$$A = \alpha E = \begin{pmatrix} \alpha & 0 \\ 0 & \alpha \end{pmatrix} \quad (2.1)$$

この場合,  $A$  そのものが対角行列です。

## §4. $A$ が重解の固有値 $\alpha$ をもち, スカラー行列ではない場合

$A$  がスカラー行列でないことから,

$$A - \alpha E \neq O \quad (3.1)$$

Hamilton-Cayley の定理より

$$(A - \alpha E)^2 = O \quad (3.2)$$

(3.1)より

$$(A - \alpha E)\vec{q} \neq \vec{0} \quad (3.3)$$

を満たす2次列ベクトル  $\vec{q}$  が存在します。

この  $\vec{q}$  に対して,

$$\vec{p} = (A - \alpha E)\vec{q} \quad (3.4)$$

とおきます。このとき,

$$A\vec{q} = \vec{p} + \alpha\vec{q} \quad (3.5)$$

となります。更に, (3.4), (3.2)より,

$$(A - \alpha E)\vec{p} = (A - \alpha E)^2\vec{q} = \vec{0}$$

が成立しますから,  $\vec{p}$  は固有ベクトルで

$$A\vec{p} = \alpha\vec{p} \quad (3.6)$$

で, (3.4)から,  $\vec{p}, \vec{q}$  は一次独立なので, 変換行列  $P$  を

$$P = (\vec{p} \quad \vec{q})$$

とおくと,  $P$  は正則になります。

(3.5), (3.6)より

$$\begin{aligned} P^{-1}AP &= P^{-1}A(\vec{p} \quad \vec{q}) \\ &= P^{-1}(A\vec{p} \quad A\vec{q}) \\ &= P^{-1}(\alpha\vec{p} \quad \vec{p} + \alpha\vec{q}) \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
&= (\alpha P^{-1} \vec{p} \quad P^{-1} \vec{p} + \alpha P^{-1} \vec{q}) \\
&= \left( \alpha \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix} \quad \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix} + \alpha \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \end{pmatrix} \right) \\
&= \begin{pmatrix} \alpha & 1 \\ 0 & \alpha \end{pmatrix}
\end{aligned}$$

となり、 $A$ が標準化されました。

### §5. 例

文字，記号は §1~4 のものをそのまま使います。

(1)  $A = \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ 3 & 4 \end{pmatrix}$  のとき，

$$\alpha = 1, \beta = 5, \vec{p} = \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \end{pmatrix}, \vec{q} = \begin{pmatrix} 1 \\ 3 \end{pmatrix}$$

とおくと，

$$P = \begin{pmatrix} 1 & 1 \\ -1 & 3 \end{pmatrix}$$

$$P^{-1}AP = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 5 \end{pmatrix}$$

となります。

(2)  $A = \begin{pmatrix} 1 & 1 \\ -1 & 3 \end{pmatrix}$  のとき， $\alpha = 2$  (重解) で，

$$A - 2E = \begin{pmatrix} -1 & 1 \\ -1 & 1 \end{pmatrix}$$

$(A - 2E)\vec{q} = \vec{0}$  を満たす  $\vec{q}$  として， $\vec{q} = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix}$  をと

れば，

$$\vec{p} = (A - \alpha E)\vec{q} = \begin{pmatrix} -1 \\ -1 \end{pmatrix}$$

$$P = \begin{pmatrix} -1 & 1 \\ -1 & 0 \end{pmatrix}$$

$$P^{-1}AP = \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ 0 & 2 \end{pmatrix}$$

と標準化されます。

(公文国際学園非常勤講師)

